

元 気 の 源 通 信

目標設計・人事労務・社会保険事務手続き・助成金

社会保険労務士 深川順次
福岡市東区香椎4-11-17-201
TEL 092-661-0552

(今月の言葉)

- ① ゲームをトコトン楽しめ
- ② 準備はおこたりにく
- ③ チームの心を一つにまとめあげる

(ロッテマリーンズ バレンタイン監督)

2005年11.12月合併号(第45号)

ついに31年ぶりの日本一に輝いたロッテマリーンズ。ご存知のようにその勝利に導いたのがマリーンズに復帰して2年目のバレンタイン監督(愛称ボビー)です。

王ホークスはこのボビーに2年連続してやられました。昨年は5試合も負け越し西武ライオンズに5ゲーム差をつけることができなかった。そして今年のご存知のようにプレーオフで苦杯をなめた。王ホークス・ファンからすれば天敵のような人です。

プレーオフ制度に大きな欠陥があるとして改革論議が始まっています。どのような結末になるのかわかりませんが、この2年間つづけてパリーグプレーオフ第一ステージの勝者が、ともに日本一になっているということです。確かに昨年の西武ライオンズ、今年のパリーグマリーンズともに強かった。これは否定しようがないと思います。しかし対戦した相手とは紙一重です。ではどこに勝因があったのか。一言でいえば待たされることの不利さ。勝ち上がってくる者の有利さです。

話しは変わりますが、試合においてこの待つことを不利さ、待たせることの有利さを最も認識していたのが宮本武蔵でした。吉岡清十郎の時も、佐々木小次郎との試合も待たせています。武蔵ファンには申し訳ありませんが、「悪用した」といっても過言ではありません。

それはともかくとしまして、ボビーがロッテマリーンズを甦らせたこと、日本一、アジア一に導いたことは間違いありません。ではなぜ勝利に導くことができたのか。

バレンタイン監督の掌握力

トコトン楽しめ

彼の著作の中には何十回、いや何百回となく「楽しむ」という言葉が出てきます。例えばたった2ページの中に8回も出てきます(『ボビー流』監督という仕事)。いわく「野球を他の人より楽しめるのです」「監督として、選手達が……勝利に貢献するのを見るのは楽しいですね」「ゲームの流れをいつも楽しんできました」「純粋にゲームを楽しむ」などなどです。まさにボビーは心から野球を楽しんでいます。

「再びロッテの監督を引き受けた当初は、試合中うまくいかないことへの批判や否定的側面に主眼が置かれていたため、多くの選手が、よいプレイができたときに野球を楽しむということを忘れていました」「ミスを恐れすぎていたため、うまくプレイできたとしても、選手達は楽しむことができなくなっていた」(『ボビー流』ボビーマジック)

ボビーマジック、それは今までの気持ちのありようを根本的に変え、選手達に野球を楽しむという魔法をかけたことといえます。野手では今江や西岡、投手では新人王を獲得した久保や渡辺など若手選手達のハツラツとしたプレーにももの見事に表現されました。

ひるがえってホークスの松中選手。今年もシーズンでは2冠王に輝きながら、プレーオフではヒット1本しか打てなかった。プレッシャーがかかる試合ほど「楽しむ」という気持ちが大切なのだろうと思います。松中選手にはぜひともボビー流を学んでほしい。(—ホークス、松中ファンより)

もちろん我々もです。仕事を楽しんでいるか。従業員の成長を楽しんでいるか。社長が仕事を

楽しみ、従業員が仕事を楽しんで打ち込める環境をつくっている企業は強い。このことをバレンタイン・ロッチマリーンズは証明しました。

準備は怠りなくー そして自分の殻をやぶれ

試合を楽しむためには、監督もコーチも選手も準備を怠ってはいけないことを口をすっぱくして強調しています。これを「5つのP」で表しています。

Perfect	………	完璧な
Preparation	……	準備は
Prevents	………	雑な
Poor	………	仕事を
Performance	……	防ぐ

マリーンズの投手陣は、12球団随一であったことは間違いありません。先発投手陣の防御率はなんと3点台の前半です。しかも中継ぎもよいし、最後に29セーブを上げた守護神小林雅英がいる。そもそも投手陣はよいチームでしたが、ボビーによって更に磨きがかけられました。

「我々は対戦する全ての相手に関して、非常に優れたリポートを用意しています。遠征にでている時であれば、ホテルの部屋に投手が集まり対戦相手の打者を1人ずつおさらいします。各打者が得意とすることを確認し、ビデオを見て弱点を見つけます。各打者に対する投球の種類とコースを示すコンピュータ画面のプリントまで用意します」

対戦相手のことをしっかりと研究して準備する。これが勝利の可能性を上げる確実な方法だと言います。もちろん不測の事態も起こります。そのときは経験による「勘」がものをいいます。この具体例として西岡選手のプレイ（外野からの送球の中継に入り、ホームベース上のクロスプレーで最後のアウトを奪い1点差で勝利した）を賞賛しています。データをもとに相手の弱点を徹底的に分析する。同時に勘働きの感度を高める。これがボビー流です。

心を一つにまとめ上げる

監督として最も重要な役割、それが「チームの心を一つにする環境づくり」だと言います。野球はチームスポーツです。どんなに一人の選手が秀でていても心を一つにできなければ勝ちつづけることはできません。

「一人ひとりの選手が、チームメイト達といっしょにプレーすることを楽しみ、勝利することとともに喜び、また敗戦の悔しさを分かち合えるようにする環境をつくれるかどうかが一シーズンの結果を左右する」

言葉の壁はあるでしょう。しかしボビーはそれを超えるコミュニケーション能力を持っています。一人一人の選手に目を配ることにより「集中力」と「安心感」を高めています。活躍した選手だけではなくチームメイトのミスを補った選手にも声をかけるなどして、一人一人に高い評価をあたえていることを伝えています。ウィットの効いたほめ上手がボビー流なのでしょう。

こうして「共に戦い、共に勝ち、共に負ける」という形で一体感をつくり上げることに成功し、日本一の頂点に千葉マリーンズを導いたのです。

昨近、成果主義ということで、信賞必罰を明確にする、貢献度に応じて賞与や給与にできるだけ差をつけるという流れになっています。もちろんそれは必要なことです。しかしそのときに何よりも大切なことは、心を一つにしていくという価値観の共有です。企業もまたチームです。共に戦い共に勝利しようという価値観を共有するたたかいなしでは、むしろバラバラにするおそれがあります。

「上司の最も重要な仕事、それはチームの心を一つにしていく環境づくり」(ボビー・バレンタイン)